

## 生活者として創り出す環境の工夫 2

後続く若者を育てる

東京都立保健科学大学 大津 慶子

### はじめに

脳性麻痺とシーティングという特集をシーティングシステム研究会で行いました。そこで電動車いすを利用して生活されている主婦丸山さんから生活体験をお話して頂きました。彼女は29歳、新宿トークハイム(グループホーム)を養護学校卒業後の住まいとして育ちました。彼女が新宿のお父さんと呼んでいる井口さんをご紹介します。

井口さんの役職は「新宿区障害者団体連絡協議会会長」です。都営戸山住宅に住む第五類椎損傷の57歳です。お孫さんが二人おられると聞くと驚くほど若々しい。井口さんの軌跡は点から線へ移動の確保から始まっています。その活動を通じて多くの若者が、ボランティア、介護専門職、障害当事者の方たちが育っています。都営住宅の取材で、スロープから外付けでエレベータがついたこと、浴槽はそのまま人海戦術で行っていることなどお話をしながら、「不便なところがあるのが、ばねかな」と、言われたのが印象的でした。

### 1. 都営住宅の一階に住む

障害者用でない都営住宅の一階に住むようになり、ベッドから出て電動車いすに乗り外出するためには、一階通路部分から屋外の道路に出る所からバリアであり解決には並みならぬ苦労があったと思われます。当時は5階建ての公共公設住宅はエレベータがなく全て階段でした。一階通路も階段を使用しないと道路には出られませんでした。最初はスロープで解決しましたが、現在は外付けでエレベータが設置されて使用しています。これは4階や5階に住むお年寄りにも大変重宝されています。



図1 スロープ



図2 チャイムをならす



図3 玄関の出入り

### 2. 玄関の出入り

自動ドアではないのでチャイムで知らせ奥さんに開けてもらって玄関内に入ります。

### 3. ベッドから天井走行リフターを用いて

建物そのものの構造を変更できないためにフレームを組み立てて天井走行リフターを設置しました。現在そのフレームはインテリアの一部になっています。インテリアの一部と言えば壁面の戸棚はガラス戸で外から衣類が見えて、着たいと思うものを選べるようにしてあります。これも井口さんらしい工夫です。入浴などはヘルパーや家族のマンパワーによって行っています。



図4 天井走行リフターフレームと衣類棚と井口さん



図5 ベッドからの移乗動作



図6 マンパワーで利用している浴槽

### 4. 通勤風景



図7 早稲田大学大隈講堂横を走る



図8 語らいながら歩く